

[試合規則]

[競技ルール] 日本空手連盟フルコンタクトカラテルール

顔面(首含む)への手技なし、顔面への蹴りはあり(幼・小・中学生は安全のため上段ヒザ蹴りなし)

[勝敗・判定]

- ・一本・技あり > ダメージ > 的確な有効打 > 手数足数 > 積極性 が勝っているものを勝者とする。
- ・主審1名、副審4名による5名にて判定、持ち点1点とし、3/5点以上を取った者を勝者とする。

※主審は判定において判断を大会委員長に仰ぐことができ、最終権限は「日本空手連盟 誠真会館 館長」が有する。

[一本勝ち]

- ・反則箇所を除く部分へ突き・蹴り・肘打ちの等有効技を瞬間的に決め、相手選手がダウンした場合、または3秒以上戦意を喪失させた場合は一本勝ちとする。
- ・技ありを2回とった場合は合わせ一本勝ちとする。

[技あり]

- ・反則箇所を除く部分へ突き・蹴り・肘打ちの等有効技を瞬間的に決め、一本には至らないが、有効な攻撃によって相手の体勢が大きく崩れダメージがある場合、又は一時的(3秒以内)に戦意を喪失させた場合は技ありとする。
- ※幼年～小学生の試合において「顔・頭部への蹴り技」がノーガードで的確ヒットした場合、ダメージに至らなくても「顔が大きく傾く」または「打撃音」により有効的な攻撃とみなした場合は技ありとする。ただし、押し付けただけ、触れただけ、かすただけ、撫でるような蹴りは技ありとしない。

[延長戦・体重判定]

- ・3本以上の旗が上がらない場合は、引き分けとし延長戦を行なう。延長戦でも決着がつかない場合は体重判定を行う。
- ・幼年～中学生は体重差が3kg未満 高校生、一般、ミドル、マスターズは体重差が5kg未満の場合は最終延長戦を行い、どちらかに旗を上げ勝者を決定する。

[反則]

次の場合を反則行為とし、その程度に応じて「注意」「減点」「失格」を主審が宣言する。

- ・手技による上段(首を含む)への攻撃や、金的、後頭部・背骨へのすべての攻撃、頭突きは禁止とする。
- ・押し、掛け、つかみ、投げ、技の掛け逃げは禁止とする。
- ・反則には「注意」が与えられ、特に悪質な反則には即刻「減点」「失格」もありうる。
- ・試合中に無意味な発声や、相手の人格を無視するような言動行動は反則とする。
- ・審判団の指示に従わない、判定に対して抗議、不服、を申し出た場合は失格とする。

[技ありと反則減点の関係性]

判定に影響しない	判定に影響する	技あり	一本
反則1回 → 注意	反則2回 → 減点1	反則3回 → 減点2	反則4回 → 失格

※減点1だと技あり以上をとらねば負け、減点2だと技ありと同等となる。尚、注意は判定に影響しない。

[特別体重規約]

※体重別階級の規定体重オーバーした場合、～1Kg未満までは「注意」3Kg未満までは「減点1」の状態から毎試合開始とする(延長含む) 3Kg以上は「失格」ただし、特別体重規約に準じて中学生は1Kg未満までは「注意」は免除。

※中学生及び高校生が成長期にあることを考慮し、申込時の申告体重と当日の体重の相違を「1キログラム未満まで」認める。(例:体重45kgとして申込みをした場合、大会当日に45.9kgまでなら体重増加を認める。)

[怪我の保護]

・テーピングや動きを補助するサポーターについては、医師診断書が必要となり、試合前に救護へ提出しチェックを受けてください。